

# 『時事直言』 No.1565 2022年8月22日

[HP] <http://chokugen.com/>

[FAX] 03-3956-1313

[twitter 日本語] [t\\_masuda2019/](https://twitter.com/t_masuda2019/)

[instagram] [t\\_masuda2019/](https://www.instagram.com/t_masuda2019/)

[mail] [info@chokugen.com](mailto:info@chokugen.com)

[twitter 英語] [T\\_Masuda\\_eng/](https://twitter.com/T_Masuda_eng/)

[Youtube] 増田俊男チャンネル/



時事評論家 増田俊男

## アメリカが決めた安倍国葬

日本国内で安倍国葬が議論されている。

国葬は吉田茂、国民葬は佐藤栄作、いずれもコストは国民の税金で払われた。

吉田茂はサンフランシスコ講和条約と同時に交わされた日米安保という歴史に残る功績がある。

佐藤栄作は沖縄返還、非核三原則、ノーベル平和賞などその功績は歴史に残る。

吉田と佐藤の国葬と国民葬に反対する者はいなかった。

世論調査によると安倍国葬への反対は50%以上である。

旧統一教会との関係、森友、加計学園、桜を見る会等の問題のみならず、歴史に残る功績が見当たらないことも反対を多くしているのだろう。

安倍元総理が日本自立の為に貢献されたことは紛れもない事実であるが、講和条約や沖縄返還と言った形がない。

国葬と国民葬を決めるうえでの基準はないそうだが、やはり過去の事例と比較することは大事だろう。

アメリカの前代未聞の安倍追悼は、どう考えても不自然である。

さらに安倍国葬が、日中国交正常化50周年式典が開かれる9月29日の2日前であることも意味深の感がする。

岸田総理は国葬外交に力を入れるようだが、安倍国葬はアメリカが岸田内閣に突き付けた「踏み絵」であることが分かっているのだろうか。

まだ間があるので、9月5日から始まる増田俊男の「インターネット国際政経塾」で戦略国家アメリカの「腹の内」を解説しようと思っている。

### 増田俊男の「ここ一番！」大好評配信中！

投資にビジネスに一番役に立つ「ここ一番」。

「明日では遅過ぎるナウな情報」をその場で必ずお送りします。

現在、増田俊男の「ここ一番！」をFAX又はe-mailにて配信しております。

詳しいご案内、お申込みについてはマスダ U.S.リサーチジャパン(株)Tel : 03-3956-8888、

HP : [www.chokugen.com](http://www.chokugen.com) まで。

「時事直言」の文章及び文中記事の引用をご希望の方は、  
事前にマスダ U.S.リサーチジャパン株式会社 (FAX : 03-3956-1313) までお知らせ下さい。